

社団法人 工学院大学 校友会

# 第105号 校友会報 32巻1号

昭和59年4月



(新発田城・新潟県観光協会提供)

## — も く じ —

○巻頭の辞……………前島 為司…表紙 2	○昭和58年度事業報告書…………… 8
○制御の体得……………川元 修三… 1	○昭和58年度収支決算書…………… 9
○化学の標準試料に	○昭和58年度財産目録…………… 9
人生をかけている英国人……………間宮真佐人… 1	○昭和59年度事業計画(案)……………10
○戦友会と校友会……………安原 豊… 2	○昭和59年度予算書(案)……………11
○松下芳男先生を想う……………谷口 宏… 2	○校友会役員……………11
○将棋に学ぶ……………南 喜八郎… 3	○校友会各部会報告……………12
○全国大会のお知らせ……………事 業 部… 3	○校友会々員居住地別人数一覧表……………14
○近況報告・学校法人…………… 4	○高校同窓会から……………15
・大 学…………… 5	○お知らせ……………15
・高等学校…………… 6	○賛助会費徴収のお願い……………15
・専門学校…………… 7	○支部だより・新潟支部・兵庫支部……………16
○第38回評議員会・第28回総会開催のお知らせ…………… 8	

# 巻頭の辞

—学園将来計画と校友会—

工学院大学校友会々長 前島為司

日本経済の低成長下、会員の皆様もそれぞれ御苦労なさっておられることと思います。本学園も創立100周年を真近に控え、昭和58年3月に学園将来計画大綱発表、同59年に要綱発表予定と、新宿再開発を焦点として創立200年を展望しつつ本学園の将来像を定め様としております。学園関係者の熱意によりこの計画が進めば、新宿副都心の高層ビル群の一角に、私達の母校が近代建築として姿を現わすのも遠い話ではありません。

今、本学園の一街区には他の三つの土地関係者がおりますが、その方々の協力を得れば四方道路に囲われた一区画をもつことが出来、学園再開発のプロジェクトが都市計画史上最も良好な型としてスタート出来、情報集約タイプの「都心型大学」が建設され、この新宿副都心にふさわしい高等生涯教育の場を社会に提供出来れば本、学園の建学の精神も新しい型で生かされることになるのではないのでしょうか。そして新宿、八王子、富士吉田の三つの学園キャンパスを持つ本学園は、どの理工系大学と比べても遜色のない、情報化社会に最も適合した学園となることは確約されたといつて良いでしょう。その時には大学の教育方針も今と違ったもので示されるでしょうし、学園として懸案事項の一つである校名問題も名実共に新生工学院大学学園にふさわしい内容で再び討議されるのではないのでしょうか。しかしここに至る道は経済的な面、対外的な面、学内の意見の統一と学外の一一致協力の支援等、それぞれ重要な課題を持ち、それ等を学園将来像に向って解決していかなければなりません。一方新宿再開発とは別に、八王子校舎整備計画も着々と進行しております。先の図書館に引続き、排水処理場、学生部室棟の完成、そして今後は建物に20億、付帯設備、移動費用その他に10億の設備投資資金をもって、3号棟（製図室棟60年3月完）5号棟（実験室棟60年度中完）が計画されております。それに伴い高等学校施設整備も行なわれます。

次に校友会活動についてであります。本年度は例年通りの物価上昇分に見合う1,040万円の厳しい予算であり、校友会の基本的活動を消化するのが精一杯という状態です。しかし昭和60年度からは専門学校、高等学校に続き現在預り金となっている大学の校友会々費も正式に使用出来ることになり、学園に対する支援も精神、物質的両面で少しは可能になるよう計画していきたいと思っております。又一昨年支部長会議で承認されました全国のブロック化の推進により全国78支部を7ブロック程度にまとめ、それぞれが地域内で独自の活動を行い、そのブロックが太いパイプとなって本部と交流し、時に応じて各支部と連絡を保つことが予想され、更に学園、校友会、後援会、PTA等有機的に結合され、学園の発展に寄与するためには校友会として全国的ネットワークの整備を急務と心得ております。大学後援会は全国18支部を完成し、各地の校友会支部との交流を持ちたいと希望もあります。将来校友会の会員となられる学生を育てて下さる方々と懇親を深め、卒業生の各地域での就職活動にも校友会会員の皆様の御援助を賜われれば、これ程すばらしいことはありません。

3年後に迎えます創立100周年こそは学園の将来を決定する最も重要な年であります。学園は都心型大学に向って着実に前進しつつあります。校友会はそのために何をなすべきかを自問し、学園関係者に対して期待される新たな組織と企画力と行動力を持つことを願って止みません。



## 制御の体得

機械工学科

川元 修三

自分の経験を話すことにしよう。あれはもう30年近くも前のことになる。

制御工学は私の大学院の研究テーマであったが、本当に分ったのは大学を出て大分たってからのことである。

それは、たしか今の新日鉄のある製鉄所のコークス炉の燃焼制御の試運転の時だったと記憶している。制御関係の工事はいつも最後に廻されてしまう。あの時も前日からの徹夜作業の結果、我々が試運転に入ったのは、東の空が白み始めた明け方近くだったと思う。連日のつかれから頭の方は、あまり思考力もなく、単に機械的に手を動かして作業を進めていた。

いつものように手動から自動に切替えたとき、コークス炉が一寸息をついたように感ぜられた。すぐに調節機が作動し順調に自動に入ってくれた。圧力計の針の動きに応じて、弁がこまかく、あたかも人の手で動かされているかのように閉開をくりかえしている。炉内圧が一寸高くなるとコークス炉の炉壁から煙がポッポッとふき出てくる。それに応じて調節弁がピクピクと動く。そんな動きを放心状態でながめていた時だった。制御とはこれなんだということが何となく実感として分った気がしてきた。本の上では制御とは「ある目的に適合するように対象となっているものに所要の操作を加えること」と書いてあるが、何かピンとこないもどかしさがあった。それが、身体で分った気がしてきたのである。

水泳とか自転車に乗るとかいった運動機能については、いくら紙の上で習っても本当に泳げるようにはならないことは誰でも知っている。このことは運動以外の知的な能力についてもいえるのではないだろうか。やはり身体でおぼえることが必要な気がするのである。

あの30年前のコークス炉の上での体験は極限状態での「さとり」の一種なのかも知れないと感じている。



## 化学の標準試料に人生をかけている 英国人

化学技術研究所

間宮 真佐人

このごろ食品や薬品などその成分の組成や含量、添加物の量などを表示するものが多くなった。確かに表示量通りであろうか？ 新聞種になった歯材料合金のようなことはないであろうか？ 疑問に思ってもそれを分析測定することは一般の人にはできない。同じ表示でも長さ、重さ、容量などは測定機器があれば容易に計測でき、機器検定制度があるため、そのデータは公差校差内にあり大小、軽量の議論の基礎となる。

標準試料の重要性は関係者すべてが認める処であるが、地味で経済的に益することが少なく、我国では必要上止むを得ず業界関係者のボランティアにより作成されている。英国北イングランドの中都市ミドルスバラの郊外に Bureau of Analysed Samples Ltd と云う会社があり、優れた金属、鉱石などの標準試料を作成、配布している。昨年その近くのダラム大学に所用があり、BASを訪ねた。

鉄道発祥の地ダーリントンで乗換えミドルスバラ駅に着くと会社の人が迎に来ていた。車で街を抜けイギリス特有の牧草地の中の道を5～6分行くと、会社の標語があり、そこを曲るとうつ蒼とした木々の並木道である。4～5百m行くと貴族の館を思わせる立派な建物があり、その車寄せの玄関に大柄な元首相のアトリーに似た紳士が出迎えていた。挨拶をすると彼がマネージャーの P. D. Ridsdale 氏であった。館の1階は彼の自宅で2階がBASのオフィス3室と実験研究室4室で、先40～50mに機械工作室が別棟であると云う、大した資産である。

標準試料はどう考えても割のよい商売ではない。Ridsdale は標準試料の重要性を信じ、その信念はBAS標準試料の質に反映し、英国、欧州だけではなく世界的標準として高い評価を受けている。仕事は単なる収入源とするだけのものではない。しかしそれを実行するのは困難である。Ridsdale 氏の仕事に英国の歴史の重さ、財産の蓄積、人の価値感など底の深さを感じた。



## 戦友会と校友会

専門学校  
安原 豊

来る2月下旬、3年振りに戦友会へ出席できそうである。戦友会の名は伊400潜会、会員数は同潜水艦元乗員179名中の現存150名、年に1回の大会は、中国、近畿、中部各地を巡り、今年は姫路で13回目を開く。

この艦は、第二次大戦末期の昭和19年12月帝国海軍が起死回生の切り札として竣工させた排水量5000吨、爆撃機搭載、当時としては世界最大最新鋭の潜水艦であった。約半年の訓練の後、同型艦3隻で特攻隊を編成し、母港呉を20年6月に出撃、終戦の8月16日には赤道直下の敵機動部隊の目前に居た。特攻機発進の為未明の海面に浮上した時停戦命令を受信、まさに間一髪の生還となった。

従って、生死を共にした戦友ではあるが、その期間は1年にも満たない。それなのに年1回の会を待ちかねたように、毎回70名以上が集る。喜寿を超した艦長を中心に、還暦を過ぎた老兵達が、若者に戻って歌い踊る。そこには命がけて戦った青春がある。

私が敗戦の虚脱から醒めて上京し、不思議な縁で工学院とめぐり会い、専修学校を卒業したのは昭和29年であった。この頃の学園は大学を開設して間なくであり、卒業生の会も従来の親睦を主目的とした工学院同窓会から母校振興を主目的とする工学院大学校友会に衣替えした直後であった。学園も校友会も新生の意気に燃えており、多くの出身者が母校に尽しておられた。鈴木隆晴、山縣孝亮、平田庄一、尾山和孝、角岡蘇一郎、森岡恭平、加藤喜作、松木清四郎等々、当時の校友リーダー達の活動に畏敬し、懸命にその後ろ姿に学んできた。私にとって、校友会は母校と同義であり、戦後の第二の人生への指針を与えてくれた恩人である、と思っている。

去る2月4日の校友会新年会に出席し、昔からの友人や同門の若人達と大いに楽しませて頂いた。ただ残念なのは、長老の出席が年々少なくなることである。然し、校友会は成長しているのであり、早晚消滅する戦友会とは違うわけで、仕方の無いことではある。

## 松下芳男先生を想う

新潟県支部長  
谷口 宏

先生と私の出会いは昭和36年の春であったと思う。当時消費組合（現生協）の理事長をされていて、私が学生の幹事を宮下茂樹（機械科卒）君と2人でやっていた頃でした。

いつも紺色の作業服みたいな服を着ておられたので守衛さんと間違えられた様です。法学と労働法規を受講したのですが、それはとても親しみのもてるしゃべり方で、話に乗ってくると口の端にあわをつけてニコ、ニコ、しながらお話ししていました。とても70歳近い人とは思えず、90分の講義が終ってみて、ふっとその事が頭をよぎるのを今でも覚えています。後で知ったのですが軍隊で相当鍛えたとのこと。又先生の御尊父が私の現在住んでいる新発田の出身で、近くにある自衛隊の前進・陸軍歩兵部隊に勤務されていて、先生は足軽長屋（現在県の重要文化財として現存）で誕生されたといえますから、世の中の巡り合せとは、不思議なものだと感じています。当地城下町の新発田市は、赤穂浪士で有名な堀部安兵衛の生誕地であります。新発田藩跡に陸軍歩兵隊があり、尊父が軍人で先生が軍人を経験されたというのも、何かわかるような気がします。市では今、先生の偉業を後世に伝えるため、一周忌を記念して「幼き日の新発田」を刊行致します。又校友会の仕事では随分と御苦労をされたようです。最近の校友会報誌では昭和50年12月の第89号が最後の原稿になっています。紙面の関係でその一部しか紹介できません。—中略—

私は、工学院の教職を去った後は全くの無職で、年がら年中連休で、ただ家にいて読み書きで、明け暮れしている老学究であるが、私の生涯中、最も長い職業の工学院のことを、いつも楽しく思い出している。そして校友会関係で行った札幌、那覇、横浜、仙台、石巻、いわき、秩父、青梅、中野、目黒などの支部を忘れることはできない。

あの激しい高度成長期に、5歳にして父と死別した私などは、松下先生の暖かい笑顔からうけた恩恵は、想い出しても胸がつまります。

## 将棋に学ぶ

南 喜八郎

椅子は全部取り外され、乗客は全員立ったまま進行方向に向って、ぎっしりと、詰めこまされて、前に立っている女性の髪の毛に鼻をくすぐられても、手をあげて、これをのけることも出来ず、只、顔を左右に振るだけで我慢をさせられた常磐線の鮎詰通勤列車も、昭和24年頃には椅子もつき、その2人掛の椅子に3人掛けをする窮屈さはあっても、退屈まぎれに、手製の折りたたみ式将棋盤を出して、結構将棋を楽しんでおる通勤者も出てきた。

この連中の乗る車輛も前から3輦目と、いつの間にか定着し、まわりの人達からは「材木押し」と異名をとった程である。けだし将棋の駒が木で出来ておるからである。

Aさんは自称2段の腕前で、この仲間では最も強かった。Aさんの指し方は仲々面白い。将棋が終盤に近くなると、盤上の敵味方の駒を一つ一つ、きちんと、指でつまんで整頓し、駒の配置を再確認し、更に夫々の持ち駒も確認して、充分詰め方を読んでから、敵玉の攻略にとりかかるので、殆んどの相手が負かされてしまう。

この戦法を私は私なりに解釈し、自分の事業に貴重な教訓として実行しようと心に決めたのである。

敵の王様を詰めることは即ち、目指した工事の獲得戦に勝つことである。

駒の配置は作業スタッフの配置で、これが適正かど

うか、又持駒は工事施工上必要な資金で、これには金融機関やメーカー或は問屋の信用度も重大要素の一つである。

これ等の条件が相まってこそ、自信をもって獲得戦に全力投球が出来、又受注した工事を立派に完成させることが出来るのであって、このうちの何れが欠けても折角苦心して受注した工事も、途中で投げ出し、発注者に迷惑をかけるばかりでなく、信用は失墜し、やがては会社を破滅に導く結果ともなりかねないのである。

又将棋には駒落戦があって、夫々の力量に応じた指し方があるのと同様に、自己の能力に応じた工事で勝負をすることが大切で、自己を過信し、能力以上の工事に手を出すと、応々にして失敗を招く原因となる。

或る名人が、負けないように心掛ける事が勝利につながる、といわれたが、経営者として肝に銘ずべき名言であると思う。

又「歩のない将棋は負け将棋」ということわざがある。いかに偉大で強力な飛車でも、飛車だけでは活躍出来ない。色々の駒が、夫々の役目を果たしておるからこそ、飛車は飛車としての偉力を発揮出来るのである。

殊に歩1枚がない為に、折角勝利寸前迄敵玉を追い込みながら、逃がしてしまうこともあり、一步の為に飛車が打死にして、これ又敗局に導くこともある。

目立たない一作業員の力がいかに大切か。

格言に「独力で成し遂げた仕事にもどこかに人との関連はある」と。

実にうがった言葉で、世の中にはよく自分1人がやったような、或は自分でなくてはなんにも出来ないような錯覚をおこしておる人がある。心すべきことではなからうか。

## 全国大会のお知らせ

第6回全国大会は、今秋11月10日(土)・11日(日)の両日、古都鎌倉の景色を愛でつつ開催する予定であります。

集合場所・時間等のスケジュールにつきましては、後日詳細を検討決定致します。

各支部・同窓会・お誘い合せの上、一人でも多くの方

々のご参加を得て、広く全卒業生の大会としての意義づけをして行きたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

全国大会参加御希望の方は、お手数ですが校友会事務局へおハガキにてお申し込みいただければ、詳細決定次第書類一式お送りさせていただきます。(事業部)

## □ 近況報告 □

### ◇ 学校法人 ◇

#### ★ 本学園関係者の叙勲受章について

昭和58年度秋の叙勲において、武藤清 元評議員が文化勲章、藤原英一 名誉教授が勲三等瑞宝章、機械工学科北郷薫教授が藍綬褒章を各受章しました。

#### ★ 寄付受贈等について、下記のとおり寄付がありました。

カンオ計算機(株)常務取締役梶尾幸雄氏から奨学金として300万円。建築学科25周年記念事業実行委員会から同学科開設25周年を記念して、建算学科記念奨学金総額200万円、工学院大学専門学校同窓会から小浪記念奨学金として1,140,314円、大岡奨学基金として教授総会構成員から238,500円、事務系役職者から70,500円及び校友会役員から22,000円。大学後援会から学生部室棟建設資金として6,500万円、富士吉田セミナー校舎にOHP1台及びコンソールBOX1台、学生部に16mm映写機1台、軽井沢学寮に除湿器1台、座布団、シーツ等の現物寄付、学生部室棟落成式ご祝儀として50万円。同ご祝儀として奥羽支部長、代議員から計4万円。尾籠栄二・米子の両氏から鈴木大拙全集他約9,000冊。齊藤道夫氏から英文学関係図書85冊。笹谷昌道氏から和洋図書500冊。榎木村電気工業所代表取締役木村政一氏からパーソナルコンピュータ1台。ビッグモールド(株)代表取締役上野寿幸氏から600万円。

#### ★ 工学院大学教育振興協力募金状況について

1月31日現在

払込件数 589件 (前年同時期774件)

払込金額 42,620千円 ( // 54,833千円)

#### ★ 寄附行為・同施行細則の一部変更について

昭和58年7月に寄附行為改訂委員会が設置され、当法人寄附行為並びに同施行細則の一部改訂について検討が進められ、理事会、評議員会で改訂が承認されたので、58年12月7日付で文部省に寄附行為一部変更認可申請を行った結果、59年1月17日付で認可されました。

#### 1 寄附行為一部変更の要点

- (1) 常務理事数を3人以内から若干名に改めたこと。
- (2) 学内評議員の選任に関わる条文(第29条)を施行細則に移行したこと。

- (3) 監事の職務を私立学校法の規定通りとしたこと。
- (4) 利害関係者である理事の議決権を制限したこと。
- (5) 用語、表現を統一したこと。

#### 2 寄附行為施行細則一部変更の要点

- (1) 学内の主任教授評議員の互選の範囲を拡張し、主任教授・同経験者の他、教務部長、学生部長、図書館長、電子計算機センター所長等部長相当職の現任者、同経験者を加えた。
- (2) 新宿・八王子の大学職員の選挙区を地区によって2分し、学内評議員の選挙区は全て1人1区とした。
- (3) 選挙権、被選挙権の資格者は、全て選挙日当日現在とした。

#### ★ 八王子校舎学生部室棟について

昭和57年の水質汚濁防止法の適用により、排水処理施設の設置が義務づけられ、これを旧学生部室棟の位置に建設することとなって、野球場の南に新学生部室棟が建設された。

建設費は大学後援会の寄付により、58年10月竣工した。

部室棟の概要	床面積	1階	384.26㎡
	2階	497.86㎡	
	3階	266.40㎡	
	合計	1,148.52㎡	

建物規模	地上3階建
構造	鉄筋コンクリート造

#### ★ 工学院大学百年史を編集刊行するため、工学院大学百年史編集委員会を発足した。

委員構成は次のとおりである。

- |               |                 |
|---------------|-----------------|
| (1) 理事        | 2名              |
| (2) 評議員       | 5名              |
| (3) 校友会役員     | 5名              |
| (4) 後援会役員     | 1名              |
| (5) 大学各系列学科教員 | 5名              |
| (6) 高等学校教員    | 1名              |
| (7) 専門学校教員    | 1名              |
| (8) 法人職員      | 2名              |
| (9) 大学職員      | 1名              |
|               | 以上23名 (総務部長 玉置) |

### ◇ 大 学 ◇

#### ★ 昭和59年度入試状況について

昭和60年度から新教育課程入試をあとに控えた59年度入試は、旧教育課程による最後の入試とあって、浪人生を中心に併願校数の増加とともに、3年連続して人気上昇の理工系に志願者の大幅アップが見られた。

本学の志願者も、57年度(17.5%増)、58年度(27.6%増)に引き続き更に、今年も20.4%増(+2,331名)と3年連続の大幅アップとなり、各学科とも競争率は上昇して前年度よりも一層狭き門となった。(表一参照)

#### ★ 卒業式 はばたく 1,075人

昭和58年度、学部卒業式および大学院学位授与式は、梅の蕾もほころび始めた3月19日に本学隣の京王プラザホテルのエミネンスホールで挙行了しました。

伊藤学長の式辞につづき、高山理事長からの祝辞があり、「学園将来計画での都心型大学の構想」についての展望が話され、卒業生1,075人が、学園将来を夢見、また、日本の科学技術の次代を背負い有為な社会人として学窓を巣立っていった。

なお、ホテルでの卒業式は、「都心型大学の構想」を(表1)59年度学科別志願者数・受験者数・合格者数等

部	学 科	定 員	志願者	対前年度		合格者
				増・▲減		
第1部	機械系学科	180	3,813	390		480
	工業化学科	80	1,111	37		262
	化学工化学	50	930	406		147
	電気工学科	90	2,100	217		333
	電子工学科 (電子工学コース 情報工学コース)	90	3,415 (2,019) (1,396)	484 (242) (242)		558 (331) (227)
第2部	建築学科	150	2,399	797		509
	計	640	13,768	2,331		2,289
	機械工学科	120	238	72		103
	工業化学科	90	119	58		50
部	電気工学科	110	360	129		90
	建築学科	110	233	89		73
	計	430	950	348		316
合 計		1,070	14,718	2,679		2,605

もつ本学にふさわしく、従来に増して華やかな雰囲気であった。36年度より、卒業生数および会場の都合で2回に分けて行われてきたが1回で挙行できたことも一層華やかさを増したことと思われた。

#### ★ 昭和58年度卒業生数と就職状況について

卒業生数と就職状況を示すと(表一2)のとおりで、卒業生は第1部861名、第2部194名、大学院博士課程1名、修士課程19名、合計1,075名で在籍者数に対する卒業率は第1部69.4%、第2部48.6%であるが、卒業論文着手者数に対する卒業率は第1部98.6%、第2部87.7%となっており、例年に似た傾向である。

就職版況は前年度と同様に好況で、1・2部の就職希望者(1,030名)全員が就職を決定した。就職決定者に対するアンケート調査の結果では、Uターン就職者30%を含め99%が就職先に満足している回答であった。

(表2) 昭和58年度卒業生の進路

学科	卒業生数	卒業生の進路		就職者の内訳			
		進学者	就職者	一般教員	自家企業	公務員	営業その他
機 械	252名	4	248	227	0	6	9
生 機	56名	0	56	51	0	4	1
工 化	115名	3	112	102	2	2	6
電 気	52名	0	52	43	4	1	4
電 子 (含情報)	187名	3	129	117	3	4	5
建 築	261名	4	183	165	6	3	9
合 計	1,055名	25	1,030	913	27	26	64

#### ★ 地方父母懇談会について

58年度の工学院大学後援会地方父母懇談会は5月21日静岡地区を皮切りに全国19会場で開催した。父母の参加者は延人数1,400名であった。昨年度に比べ約6%増加した。いずれの会場も熱っぽい真剣な雰囲気で開催された方からは学内の事情がよく分ったと大変喜ばれました。これまですでに15支部が誕生し、本年1月28日には支部長会議が女子の会議室で開かれ、地方支部の活動状況および59年度父母懇談会の持ち方などについて活発な意見がかわされた。なお、59年度の地方父母懇談会は5月19日北陸地区を皮切りに開催することになりましたので、校友の方々のご支援、ご協力をお願いいたします。(文責 高橋) 教務部長 宮島 亮

◇高等学校◇

★楽の音

新しいカリキュラムの実施二年目に入り、二年生の普通科では、美術と音楽の選択授業が始まっています。大体一クラス当たり美術30名、音楽20名位の割合です。音楽は本校では初めて正式に採り入れられた科目ですが、時々5階の視聴覚室から、かすかに漏れてくる軟らかいクラシックギターの音色や、若々しいコーラスの声を耳にするのは、心とむものがあります。

★落語鑑賞

10月1日、2日は恒例の学院祭ですが、催し物の目玉として落語の鑑賞を採り上げてみました。伝手があつて八王子在任の三遊亭金太郎さんら二ツ目の若手落語家三人が奉仕的な出演料で出てくれました。会場の視聴覚室がどの程度埋まるのか気懸りでしたが、若手らしい生きのいい熱演もあって大入りの大好評でした。

★工学院大学推薦合格者の指名補習授業

例年の通り、1月13日、工学院大学への推薦合格者、第一部125名、第二部37名が決まりましたが、そのうち英語・数学の学力がやや不十分と思われる生徒について、2月6日から8日間、指名補習授業を行いました。特に本年度は基礎学力の充実について大学側からの強い要請があり、理由もなく欠席・遅刻・早退をした者については推薦取消も辞さない強い姿勢で臨みましたので、生徒の受講態度は実に真剣でした。

★入学志願者の応募状況

試験日を昨年2月18日から20日にもどしたこともあって、応募者数は、普通科993名、工業科347名、計1337名と、略々期待通りの数でした。提出された内申書をざ

っと見た感じでは、志願者のレベルはここ数年の中で一番高いように思われました。

★進学

前掲の工学院大学推薦入学者の他に、現在まだ結果は判っておりませんが、国立を始め早大、中大、日大など他大学受験中の者が50数名おられます。今年は、成績の良好な者の中に積極的に他大学の受験を希望する傾向が見られます。このように外部に目を向ける生徒の増えることは、全体の学習意欲の向上につながることで歓迎すべき傾向だと思っています。

★就職

マスコミ情報の通り、去年に引続き高校生の就職事情は厳しいものがありました。何とか希望者60名全員の斡旋に漕ぎ着けそうです。主な就職先は次の通りです。日本電気、三菱電機、沖電気、岩崎通信機、富士精工、蛇の目ミシン、小西六、同和鉱業、いすゞ自動車、日産自動車、日本ラジエーター等

★クラブ活動

<野球部>公式戦を含めた41試合の成績は略々五分だが、都内の上位64校に伍して、59年度春季大会の出場権を得ています。

<柔道部>4月新人戦の都予選に優勝し、関東大会の出場権を得ました。5月都大会三位、関東大会に出場日大土浦に0-1で惜敗。

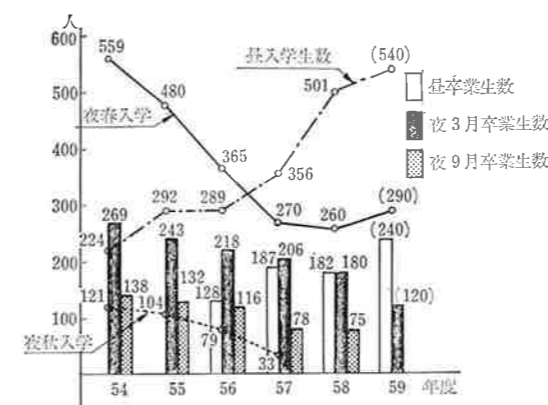
<サッカー部>6月、八王子大会に準優勝、5月インターハイ地区決勝で都立日野台高校に1-2で惜敗。

<文化部>学院祭で人気のあった「面白ゼミナールコーナー」の自然科学部員が城山中学に招かれ、NHKの番組もどきに披露したところ、大変好評でした。

(教務主任・宮越美知夫)

◇専門学校◇

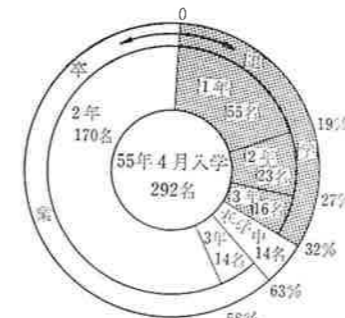
○最近5年間の入学・卒業生数



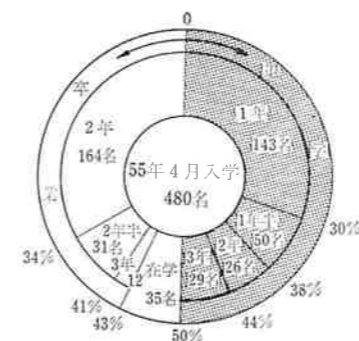
59年度入学生数及び卒業生数は見込みです。昼間部は推薦入学193名を決定、一般一次募集を2月20日締切り、応募者383名(昨年比154%)、二次募集3月1日~19日。夜間部は2月20日現の応募者110名(昨年比110%)、3月31日まで募集します。

○入学者の卒業率、退学率

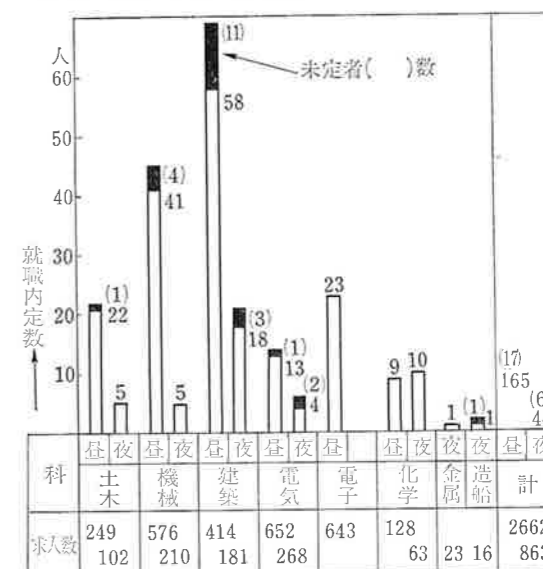
昼間部



夜間部



○58年度求人と就職内定状況



求人数は58年12月末現在、就職内定数及び未定者数は1月末現在の人数です。

○国際交流

58年4月より、ハワイ大学助教授黒川省三先生、ニュージーランド高校元教員メアリー・高梨先生が、昼間部英会話講師として在任中。

58年11月1日~59年1月3日、本校土木科田尻主理補が、ネパール政府の要請により、技術指導のため出張。

58年12月5日、中国産業教育調査団の2名が専門学校教育について視察のため来校。

○その他

(1)電気主任技術者(2種、3種)資格取得が昼間部にも認可された。59年3月卒業生から適用される。

(2)58年7月の電卓検定試験結果、受験286名、合格247名(86.4%)。昨年67.7%

(3)電気工事士学科試験結果、受験61名、合格23名(37.7%)。昨年42%

以上近況の大略をお知らせ致します。

(校務長 安原 豊)

創業昭和15年

福島会計事務所

所長 福島 誠一 (建築103回卒)

事務所 〒165 東京都中野区新井4丁目18番10号  
福島ビルディング 103号

TEL 03-388-6081 (代表)



福島ビルディング

社団法人 工学院大学校友会 第38回評議員会 第28回総会 開催お知らせ

会長 前島 為 司

日時 昭和59年5月27日(日)13時~17時 承認の件
場所 工学院大学第1会議室(新館8階) 第4号 役員改選の件(評議員会のみ)
議案 (資料参照) (注)1. 本誌に同封の郵便はがきにより、折返し出欠の有無をご回答下さい。
第1号 昭和58年度事業報告書並びに収支決算書承認の件 2. 施行細則第8条により、当該議事について意志表示のない場合は、同意の意志表示とみなして、出席者数に加えることができますのであらかじめご了承下さい。
第2号 昭和58年度財産目録承認の件
第3号 昭和59年度事業計画(案)並びに収支予算(案)

昭和58年度事業報告書

Table with 2 columns: 事業に関する定款条文, 事業内容. Rows include school facility improvement, student activities, magazine publication, academic lectures, mutual support, and job assistance.

昭和58年度収支決算書

(自 昭和58年4月1日)
(至 昭和59年3月31日)

収入の部 支出の部 (単位 円)

Income and Expense Statement table with columns for Budget, Actual, and Difference. Includes categories like Fees, Expenses, and Miscellaneous.

(注) 収入の部 △減 支出の部 △超過

昭和58年度 財産目録 (59. 3. 31現在)

Balance Sheet table showing Total Assets (I + II) as of March 31, 1959, with a total of 69,041,306 Yen. Includes sub-sections for Fixed Assets and Current Assets.

II 運用財産

款 項	金 額
1. 流動資産	2,611,619
(1) 現金	121,043
(2) 普通預金 第一勸業銀行新宿西口支店 口座 062-1005804	1,779,603
(3) 郵政省振替貯金 東京 3-91108	2,497
(4) 普通預金 東海銀行新宿西口支店 口座 387-412	708,476
2. 固定資産	1,479,995
(1) 電話加入権	30,000
(2) 什器備品	0
(3) 職員退職引当金積立	
(イ) 普通預金 第一勸業銀行新宿西口支店 口座 062-1148664	53,071
(ロ) 有価債券 日興証券株式会社 口座 215-74810	1,396,924
3. 特別資産	59,301,950
(1) 別途積立金(賛助会費)	4,281,886
(イ) 現金	13,223
(ロ) 普通預金 東海銀行新宿西口支店 口座 155-199	59,890
(ハ) 有価債券 日興証券株式会社 口座 215-7773	4,208,773
(2) 特別預り金(終身会費)	55,020,064
(イ) 普通預金 第一勸業銀行新宿西口支店 口座 062-1320289	521,761
(ロ) 有価債券 日興証券株式会社 口座 215-69469	54,498,303
資 産 合 計 (1+2+3)	63,393,564

昭和59年度事業計画(案)

事業に関する定款条文	事業内容
学校の教育施設の改善に関する助成(定款第5条第1項)	1. 学校法人工学院大学と協議の上で援助する。 2. 学園将来計画に協力する。
学校に在籍する学生、生徒の学修活動および就職指導ならびに教職員の調査研究の助成(定款第5条第2項)	1. 学生、生徒の研修援助 優秀な学生には各学校毎に表彰する。
会誌および学術図書の刊行(定款第5条第3項)	1. 校友会々報の発行 2. 会員名簿の刊行 学園コンピューターシステムによる会員名簿の作成。
学術に関する講演会および見学会等の開催(定款第5条第4項)	1. 学術講演会や見学会を開催する。
会員相互の親睦提携および学校との連絡を図るに必要な施設の設置(定款第5条第5項)	1. 校友会諸設備および校友会館の建設 校友会事務室、会議室等を整備し、将来校友会館を建設するための具体的計画を促進し、実行するよう努力する。 2. 懇話会等の開催 全国大会 新年懇親会等の開催。 3. 支部の支援 支部長会議を機能化し、支部組織の活性化を図る。
学校の行なう就職あっせんおよび紹介に関する援助(定款第5条第6項)	1. 就職あっせん、事業紹介等を行なう。
その他目的を達成するために必要な事業(定款第5条第7項)	1. 八王子校舎に植樹

昭和59年度予算書(案)

(自 昭和59年4月1日  
至 昭和60年3月31日)

収入の部 (単位 円) 支出の部 (単位 円)

款 項 目	59年度 予算額	前年度 予算額	増 減	款 項 目	59年度 予算額	前年度 予算額	増 減
1. 会費収入	9,247,000	9,778,000△	531,000	1. 事務総経費	7,752,000	7,980,000△	228,000
(1) 機械	1,293,000	1,011,000○	282,000	(1) 人件費	4,932,000	4,743,000○	189,000
(2) 応電	856,000	719,000○	137,000	1 職員給与費	4,386,000	4,218,000○	168,000
(3) 電	1,607,000	1,220,000○	387,000	2 超過勤務費	136,000	165,000△	29,000
(4) 建	1,262,000	910,000○	352,000	3 職員交通費	320,000	280,000○	40,000
(5) 高	639,000	526,000○	113,000	4 臨時給与費	60,000	50,000○	10,000
(6) 専	3,590,000	5,392,000△	1,802,000	5 厚生福利費	30,000	30,000	0
2. 寄付金	50,000	0○	50,000	(2) 事務諸費	1,640,000	1,577,000○	63,000
3. 事業収入	100,000	170,000△	70,000	1 事務用品費	900,000	890,000○	10,000
(会報広告料)				2 通信費	600,000	600,000	0
4. 利息収入	50,000	50,000	0	3 修繕費	20,000	20,000	0
5. 雑収入	30,000	2,000○	28,000	4 備品費	50,000	0○	50,000
6. 特別預り金繰入金	923,000	0○	923,000	5 振替手数料	20,000	20,000	0
7. 前年度剰余金	0	0	0	6 雑費	50,000	47,000○	3,000
				(3) 会議費	1,000,000	1,480,000△	480,000
				1 会議費	400,000	510,000△	110,000
				2 役員交通費	600,000	970,000△	370,000
				(4) 対外費	50,000	50,000	0
				(5) 度吊費	120,000	120,000	0
				(6) 租・公課	10,000	10,000	0
				2. 事業費	2,220,000	1,720,000○	500,000
				(1) 広報部費	120,000	120,000	0
				(2) 組織部費	700,000	700,000	0
				(3) 事業部費	500,000	700,000△	200,000
				(4) 企画部費	200,000	200,000	0
				(5) 総務部費	0	0	0
				(6) 全国大会	200,000	0○	200,000
				(7) 植樹	500,000	0○	500,000
				3. 職員退職引当金	200,000	200,000	0
				4. 予備費	228,000	100,000○	128,000
合 計	10,400,000	10,000,000○	400,000	合 計	10,400,000	10,000,000○	400,000

(注) 収入の部 ○増 △減

(注) 支出の部 ○増 △減

校友会役員 自 58.4.1 至 61.3.31

会 長	前 島 為 司	総務部理事	後 藤 弘太郎	企画部部長	田 中 博 国	事業部部長	南 雲 芳 夫
副 会 長	小 高 鎮 夫	〃	丹 羽 宏 之	企画部理事	吉 田 薫	事業部理事	青 野 毅
(総務担当)	〃	〃	喜多村 久雄	〃	松 本 克 己	〃	磯 田 昌 男
(財務担当)	富 所 良 二	〃	宮 崎 勝 弘	〃	佐 藤 晃 市	〃	角 田 孝 助
(企画担当)	森 山 健 次	〃	宮 沢 正 義	〃	北 沢 興 一	〃	愛 川 高 朗
(広報担当)	〃	〃	住 野 和 男	〃	高 橋 孝 治	〃	宮 本 陸 一
(事業担当)	内 山 太	財務部部長	篠 原 梅 吉	広報部部長	木 寺 郁 男	組織部部長	南 喜 八 郎
(組織担当)	〃	財務部理事	関 口 勇	広報部理事	天 野 晋	組織部理事	北 村 菊 男
監 事	戸 部 英 瑞	〃	松 山 守 也	〃	石 川 徹	〃	溝 上 俊 治
〃	菊 池 誠	〃	伊 藤 真 治	〃	蓮 池 嘉 和	〃	横 山 修 一
〃	長 嶋 秀 世	〃	清 水 利 治	〃	南 迫 哲 也	〃	金 尾 武 彦
総務部部長	榎 本 忠 良	〃	太 田 雅 康	〃	中 島 孝 明	〃	酒 井 史 生
					荻 島 健 晃	〃	吉 岡 暁 一

## □ 校友会各部会報告 □

### □ 財務部 □

#### 1 はじめに

財務部は今度の校友会の組織変更によって、経理部から生れかわった部である。この名称変更理由の一つとして、在来の経理部のあり方から脱却して、校友会財産の増加対策も考慮してほしいとの意図があったようである。よって、この考え方も念頭において適正な業務執行をしたいと考えている。

#### 2 業務報告

財務部として誕生してから6回に及ぶ会議を開催している。この会議による成果は次のとおりである。

2.1 次の2つの内規の制定 ①、公印規定 ②、社団法人工学院大学校友会予算執行規定

2.2 賛助会員会費の適正な運営

財務部としては、目下のところ、賛助会員として御協力下さる校友の増加を図ることを、考えているが、この対策として、次のような整備をしている。

①賛助会員のコンピューター入力の特

事務処理を迅速にするため実行することになった。

②賛助会員の名簿作製の件

即納と分納の個人別名簿とし、納入経過等明示の名簿を作り、支部別入金者と入金額の表を作り、各支部へ発送した。

③納入された賛助会費の件

賛助会費は校友のご厚志による貴重なものであるから、より厳正な取扱いをし、増収を図ることとしている。

#### 3 今後の課題

他大学のあり方（校友会館や有益事業を有している）に追いつき、追こすよう、目標を定めて、事業資金の蓄積を図ることが、必要である。これは部のみでは解決することできなく、他部と話し合いを進めたいと考えている。

### □ 企画部 □

編集部で名簿の電算化が進み各単体で一応完了したので、今後年々変化する名簿は一部の方に継続的にお願いし部活動から除外する事となりました。そこで新しく企画部が設けられました。

昨年機械学科常任理事として吉田薫氏が推薦されまして、企画部長として企画部の運営をされます。各部会では従来の事業を継続的にやっておる様ですが、我々新しい企画部は先づ其の基本姿勢を定めて行かなければなりません。同窓会、校友会合併後の会の運営をしっかりと見定めた上で、長期的なもの、短期的なもの、又その過度期的なもの等色々あると思いますが今年はそれ等を含めて

1 校友会の活動の活性化（支部校友対策を含めて）

2 校友会の本学園に対する協力の促進

3 校友会の長期計画

等々旧校友会を脱皮し新生校友会に変わるためには企画部の考えだけに止まらず、広く卒業生諸兄の皆様御意見を集めて、企画立案したいと思っておりますので、良い御意見を多く頂くための方法等も考えなくてはけません。

本校の百周年も間近にひかえて学校側でもその対策が大変と思いますが、私達卒業生もその力を結集して、学内に協力しなくてはなりません。私も校友評議員として長らく学校法人のお手伝いをさせて頂いて、校友の皆様の協力が私学に与える影響の大きさが、どんなものであるかを知りました。身近な校友の親睦に始まり相互の連絡と消息を把握する事は非常に大切な事でありです。以上をふまえた上で企画部は全員一致して本年度事業を進めて行きたいと思っておりますので、重ねて皆様の御協力をお願いいたします。

### □ 広報部会 □

今年度から定期刊行としては、年1回の発行を原則とし、中味の充実を計ることになりました。各界・各地で活躍されている卒業生の方々の情況・御意見を会報のメインテーマとして取上げ、可能な限り一方通行にならぬ様努力すると同時に、校友会の位置づけをより明確にして行くべく広報部一同模索しております。

### □ 事業部 □

昭和58年度は、校友会役員改選が行なわれ、事業部役員も全員替りました。昭和58年度の大きな事業計画は、学生表彰と新年会の2件であります。例年新年会は、大学の大会議室で開催されていましたが、本年は、風光明



美な所でゆっくりと宿泊し、温泉にでも入りながら、旧交を温めてはとの発案により、熱海の大野屋で2月4日から5日にかけて、新年会を開催いたしました。当日は、大学法人から理事長の高山先生、理事で専門学校々長の鈴木先生を始め多くの御来賓のご出席を賜りました。会員諸兄も多数参加され、総員百十数名にもおよびました。また心の暖いご寄付をいただき、非常に盛大な新年会を開催出来たことを心から感謝致しております。在校生の表彰の件も各学校と連絡を取り、優秀な学生を例年通り、校友会の総会に於て前島会長より表彰する予定です。その他に、八王子校舎のグラウンドに建設されたクラブハウスに、植樹をする計画が提案され、昭和59年度に実現するように具体化計画を進めている所です。

### □ 組織部会 □

#### 1 各支部活動

本年度中に役員会並に総会を開催された支部は下記のとおりで、本部よりできる限り出席し、ご意見を拝聴するよう努めておりますが、今後益々ご発展を祈念いたします。

記

愛知、相模、山形、大阪、高知、多摩、川崎、兵庫、北海道、大分の10支部

#### 2 全国支部長会議

昭和58年11月6日、八王子校舎において開催。秋雨け

ぶる中を鈴木先生のご案内で、新装なった図書館や、部室棟等を見学し、昼食後、高校の視聴覚室に於て、会議に入り、司会は金尾組織部副部長。議長団席に樋口・中野支部長、岡本・兵庫県支部長、高野・新宿副支部長が着席し、議題の審議に入る。

1. 正副議長改選について

議長、樋口・中野支部長、副議長、岡本・兵庫県支部長、高野・新宿副支部長、落合・杉並副支部長、に決定

2. ブロック化推進について

57年の支部長会議において決定した全国7ブロック化について説明があった。

3. 支部問題委員会の存続について

議長より、委員会の名称が問題となっておると思うが、ブロック化を推進してゆく過程に於て、自然と名称が変わると思う。と発言があり、了承された。

4. 学校法人評議員の推薦について

本部総務部長より、校友会よりの選出については、前回のとおり任せてもらいたい旨提案され、了承された。

#### 3 感謝状贈呈について

去る2月4日の新年懇親会の席上、支部関係の5氏が支部運営に貢献された功績により、感謝状を贈呈された旨発表された。

記

前文京支部長 鈴木貞次 前千代田支部長 岸川 充  
前三重県支部長 強力辰夫 前鹿児島県支部長水淵清美  
前富山県支部長 寺井 猛



□ 総務部 □

昭和58年度の校友会活動を理事会その他の活動を通じて御報告致します。

- 第1回理事会 (58・4・26一火)
  - 議事 1. 会長・副会長・常任理事選出の件
  - 2. 施行細則改正の件
  - 3. 昭和57年度収支決算及び監査報告の件
  - 4. 昭和58年度事業計画の件
  - 5. 昭和58年度総会・評議員会議事及び日程の件
- 第2回理事会 (58・5・24一火)
  - 議事 1. 常任理事及び理事の各部担当委嘱の件 (施行細則第5条第3項による)
- 第3回理事会 (58・7・12一火)
  - 議事 1. 年間会議日程について
- 第4回理事会 (58・9・20一火)
  - 議事 1. 学校法人評議員選出方法について  
単体同窓会より各3名、校友会全体より2名計20名の選出方法が決定した。
- 第5回理事会 (58・11・25一金)
  - 議事 1. 年間行事予定(後半)の件
  - 2. 学校法人評議員候補選出の件(後記)
  - 3. 内規制定の件  
役員推薦規定、慶弔および表彰規定、旅費規定、予算執行規定、公印規定、賛助会費取扱い規定、をつくった。
- 第6回理事会 (59・1・26一木)
  - 議事 1. 59年度の事業計画と予算の編成方針の件
  - 2. 役員一部改選の件
  - 3. 内規制定の件
  - 4. 学校法人評議員候補補欠2名選出の件
- 第7回理事会 (59・3・9一金)
  - 議事 1. 59年度事業計画について
  - 2. 59年度予算案について
  - 3. 58年度事業報告について

昭和58年度事務報告

1. 会議の開催状況は下記の通り。	(回数)
総会 (5/29)	1
評議員会 (5/29)	1
支部長会議	1
理事会	7
常任理事会	13
総務部会	10
財務部会	8
企画部会	1
広報部会	8
事業部会	8
組織部会	6

この外、各種委員会等が多数開催された。

校友会会員居住地別人数一覧表

(83/11/07 現在)

	機械	応化	電気	建築	高校	専門	計	
北海道	98	81	77	107	5	47	0	415
青森	21	28	23	20	0	32	0	124
岩手	30	33	26	36	1	47	0	173
宮城	31	28	31	47	6	39	0	182
秋田	25	34	35	33	0	23	0	150
山形	26	20	34	32	1	41	0	154
福島	49	70	60	59	2	59	0	299
茨城	137	142	118	106	24	148	0	675
栃木	102	101	82	79	9	73	0	446
群馬	84	94	87	102	3	54	0	424
山梨	716	692	709	608	443	912	0	4080
千代田	372	436	310	429	114	469	0	2130
東京	3104	1677	3339	3421	4439	3093	2	19075
神奈川	976	856	989	808	726	881	0	5236
新潟	114	79	96	102	4	88	0	483
富山	49	54	48	46	0	19	0	216
石川	51	33	32	28	0	13	0	157
福井	14	12	14	10	1	8	0	59
福山	62	45	88	84	58	47	0	384
山梨	177	113	149	107	5	74	0	625
岐阜	22	25	19	26	3	9	0	104
静岡	222	215	169	150	13	92	0	861
愛三	92	90	62	83	8	22	0	357
滋賀	24	20	17	31	2	9	1	104
滋	17	19	8	6	2	4	0	56
京都	12	19	9	11	1	3	0	55
大阪	50	79	47	51	6	21	0	254
兵庫	31	52	24	34	2	6	0	149
奈良	5	17	10	4	0	3	0	39
和歌山	9	20	2	6	0	7	0	44
鳥取	2	7	6	10	0	4	0	29
島根	10	9	11	10	0	6	0	46
岡山	22	18	18	16	0	22	0	96
山島	48	35	40	41	1	13	0	178
山口	31	26	18	19	0	14	0	108
徳島	11	8	5	4	0	3	0	31
香川	15	9	4	7	1	7	0	43
愛媛	22	18	14	14	0	15	0	83
高福	22	7	10	12	0	7	0	58
福岡	46	47	39	59	2	18	0	211
佐賀	7	11	7	16	2	3	0	46
長崎	27	6	18	15	0	9	0	75
熊本	9	10	7	15	0	11	0	52
熊大	14	19	19	13	0	14	0	79
宮崎	21	15	14	15	0	7	0	72
鹿児島	27	30	20	23	0	19	0	119
沖縄	6	7	15	20	1	42	0	91
合計	7062	5466	6979	6975	5885	6557	3	38927

高校同窓会から

会長

足立 剛一

会員諸兄には益々ご健勝で、ご活躍のこととお喜び申し上げます。常日ごころから、本学の発展の為に協力いただき感謝いたしております。今年は高等学校創立40周年を迎える事になり、この機会に同窓会として在校生諸君の文化、スポーツ活動の活発化をはかりさらに諸施設の充実のための援助を目的に次の主旨で募金を行うこととなりました。会員各位のご理解を賜りますようお願い申し上げます。

記

- 1 募金目標額 金1,000万円(第一次分とし)
- 2 募金額 金1口 1,000円以上
- 3 期間 昭和59年4月1日から  
昭和60年3月31日まで

尚学園将来計画に伴う八王子整備計画及び新宿再開発等の諸事業は、これによって年の計をたて、新しい歴史をつくるための目的であることには間違いありません。しかしこの計画を実施するためにはまだ、多くの難問があります。

賛助会費徴収のお願い

会長 前島 為司

本会員の皆様には、校友会事業活動に対し常々御協力御援助を賜り厚く御礼申し上げます。校友会の活動充実の為に運用資金援助として皆様より賛助会費徴収をお願いしておりますが、59年1月の理事会にて規定の一部を下記の通り改め、より一層の御協力を頂きたく振込用紙を同封いたしましたのでよろしくお願ひ申し上げます。

記

賛助会費取扱い規定

本規定は定款第6条(賛助会員この法人の目的事業を後援し、5万円以上の寄付金を寄贈した者)の他本会員の賛助会費について定める。

昭和62年10月31日は学園の創立100周年記念日であり学園を再構築し発展せしめるべき絶好の機会ではありません。いずれこれらにつきましては、次回発行の高等学校同窓会報で説明させていただきます。

★お知らせ

◎次期校友評議員について

第12期学校法人の役員改選にあたり次の方々を昭和59年4月1日付にて校友出身評議員として決定いたしました。

- |       |       |              |
|-------|-------|--------------|
| 青野 毅  | 石成 和男 | 榎本 忠良        |
| 金尾 武彦 | 高橋 孝治 | 富所 良二        |
| 長嶋 秀世 | 丹羽 宏之 | 間宮真佐人        |
| 森山 健次 | 足立 剛一 | 内山 太         |
| 小高 鎮夫 | 篠原 梅吉 | 田中 博国        |
| 長坂 舜二 | 南雲 芳夫 | 前島 為司        |
| 南 喜八郎 | 山崎 隆一 | (以上20名 50音順) |

- 第12期評議員会議長 間宮真佐人
- 第12期校友出身学園理事 足立剛一 金尾武彦
- 第12期法人監事 北野均 只野文哉 森山健次

◎事務局長の退任について

校友会の事務局長として、ご尽力くださった、吉田清風先生は昭和59年3月31日付でご退任なされました。

- 第1条 賛助会費を次の条件で分納することができる。
  1. 毎年2000円以上を納入すること。(2000円を単位として増額できる)
  2. 合計が5万円以上になるまで毎年払いつづけること。
- 第2条 賛助会費は次のように使用する。
  1. 70%は積立てて目的を定めて理事会の承認を得て使用する。
  2. 30%は交付金として納入者の所属する支所へ交付する。
- 第3条 交付金は明細を年1回支部長に通知し支部長の請求により交付する。

別紙振込用紙にて会費を郵送して頂くことで、賛助会員の登録手続きをさせていただきます。

## □支部だより

### 新潟県支部総会

支部長 谷口 宏 (G7建)

昭和58年11月6日(日)午後1時より、新潟駅前のニュー安兵衛に於いて、定例の支部総会を開催致しました。当日は支部長会議と日程が重なり、残念ながら本部からの出席がありませんでしたが、上、中、下、越より13名の会員が出席した。支部長挨拶の後議事にうつり、決算報告、支部運営について活発な意見が出た。支部名簿作りについて提案したところ、是非作ってほしいという要望があり、全員の意見が一致した。この後記念撮影、懇親会にうつり、関矢副支部長の開会の挨拶につづいて、自己紹介、懇談へと時を忘れて酒宴を繰り広げた。出席者 有本英二(B92土)、樋口直吉(A72建)、風間治作(B80建)、市島興助(A68機)、吉田俊夫(B106電)、片桐光平(D121土)、関矢文衛(F5建)、横村真司(G47電)、大堀雄(G6機)、谷口宏(G7建)、柳瀬健(D125建)、佐藤公司(D134建)、楡井政男(G4建)

### 兵庫県支部の誕生から

支部長 岡本耕一(聖治) (31建築)

長部建築株式会社 常務取締役  
コーヒーハウスミニR(支部事務局)

兵庫県支部は昭和55年9月大阪支部より分割され兵庫県支部となりました。大阪支部にて面識のあった数人により発起人会を結成、わずか15名で発会式を行い、以後



本部及び大阪支部の名簿、又会員ひとりひとりが旧知をたどり現在119名の支部会員の確認に至った。支部自体発足わずか4年の支部であり、又会員構成も95%が大学出身者という若い集まりでもあります。

4年を迎えた今、支部の存在も認められ、当初出すだけという一方的な郵便物も回を重ねるごとに返信も増し今回の総会案内を例に見るなら、出欠を合せ返信回答率は70%強を示すに至りました。

不十分ながら基礎は着実に固まりつつあり、今後の活動への足がかりとなるものと考えます。

「年1回総会を開き、唯飲むだけでなく何かをやる」と言うのが世話人役員の当初よりの懸案でありましたが、今回別記次第の通り見学会、講話と実現致しました。

今総会の支部会員の出席は31名であります。この31名に1人でもプラスされた会員により次期総会を開催できる事を今より念願している次第です。年を経、回を重ねるごとに出席者も増し、大いに親睦を深め仕事の面でも互いに手をたづさえ協力しつつ、兵庫の地で活躍している事を合わせて報告しておきます。

### 原稿募集

工学院大学校友会会報は毎年4月に発行しております。ついては下記により原稿を募集致します。

記

1. 随筆、紀行文、一般向きの論文
2. 各支部の情報
3. 叙勲その他校友会会員、卒業者の情報
4. 提案、その他

以上400字詰原稿用紙使用(横書き)に2枚又は4枚で、必要に応じ図面、写真を添えて下さい。

広報部


### 編集後記

今回は広報部メンバーも新メンバーを組んで卒業生の方々の地方での活躍状況をメインテーマに会報を組む予定でしたが、お願いの主旨不徹底の為、意とするところが十分表明出来ませんでした。会の発展につながるよう微力ながら広報部一同御協力させていただきたく今後ともよろしくお願いたします。



あすを建設するシステムと頭脳。

建設の仕事はいま、社会の多くの課題、その解決と深いかわり合いを持っています。たとえばエネルギー対策、交通網・都市環境の整備、住開発から地域・総合開発...など。私たち清水建設は、原子力発電所から住宅の建設まで、豊富な技術群を有機的にシステム化しながら、社会のニーズに応えてまいります。

 清水建設株式会社  
本社:東京都中央区京橋2-15-1 1F TEL(535)4111  
支店:横浜・名古屋・大阪・広島・高松・福岡・金沢・仙台・札幌

## 良心的な電気工事

- ゆたかな経験
- すぐれた技術



### 東光電気工事株式会社

取締役相談役 杉山 慎 取締役会長 松本福男 取締役社長 菅 保之  
東京都千代田区西神田1-4-5 ☎101 電話/東京292-2111大代表  
支社/札幌・仙台・丸の内・横浜・名古屋・大阪・九州

# 明和の土建機

## 振動ローラー

### ハンドガイド

MRA-85型, 0.85t  
 MRA-75型, 0.75t  
 MRA-65型, 0.65t  
 上下回転式ハンドル  
 油圧式

- サイド転圧可能
  - ステアリング軽快
- MVR-30型, 3.0t  
 MVR-26型, 2.6t  
 MVR-12型, 1.2t



## 新開発

## コンバインド タイヤ鉄輪

アスファルト 舗装最適  
 センターピン方式  
 MUC-40型, 4t  
 (前鉄輪・後タイヤ)  
 MUS-40W型, 4t  
 (前後共鉄輪)

## バックホ ランマー

ベルト掛け式  
 RA-110kg  
 RA-80kg  
 RA-60kg



## タンパランマー

RT-75型・55型  
 エンジン直結式  
 オイル自動循環式



## カッター コンクリート



MC-10型  
 MC-12型  
 MC-22型  
 MC-30型

(カタログ進呈)



## バックホ プレート

- 修理 舗装 P-9型  
 装 P-8型  
 ・整形 VP-8型  
 VP-7型  
 ・KP-6型



社長 月原 貢 (機58)  
 昭和43年春 勲四等旭日章  
 昭和53年秋 紺綬褒章

## 株式会社 明和製作所

川口市青木1丁目18-2 〒332  
 本社・工場 Tel. (0482)代表(51)4525~9  
 大阪営業所 Tel. (06)961-0747~8  
 福岡営業所 Tel. (092)411-0878・4991  
 名古屋営業所 Tel. (0822)93-3977(代)・3758  
 仙台営業所 Tel. (052)361-5285~6  
 札幌営業所 Tel. (0222)96-0235~7  
 札幌営業所 Tel. (011)822-0064

第三十二巻 第一号  
 昭和五九年四月二十五日発行

発行集人兼 木寺郁男  
 印刷所 東京都中野区入船一丁目一五十一番  
 電話(552)九七三三

発行所 社団法人 工学院大学 校友会

東京都新宿郵便局私書箱第十三号  
 東京都新宿区 西新宿一丁目四十二番  
 電話(三)三〇六四番  
 振替東京九一〇八番  
 一六〇一九一